

2024年6月1日 【清真学園 校長室だより】 「社会人基礎力」について.

いつの時代になっても、社会に出て活躍するための普遍的な価値基準は存在します。知識や能力以前に社会の中では、一人の人としての在り方がより問われているといっても過言ではありません。職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力を、我が国の経済産業省はだいぶ前に「社会人基礎力」と定義し、「前に踏み出す力（アクション）」「考え抜く力（シンキング）」「チームで働く力（チームワーク）」の3つの能力から構成されると整理しました。そしてそれぞれ、アクションには3つ（課題発見力・計画力・創造力）、シンキングにも3つ（主体性・働きかけ力・実行力）、チームワークには6つ（発信力・傾聴力・柔軟性・状況把握力・規律性・ストレスコントロール力）の能力要素が示されています。

「人生100年時代」や「第4次産業革命」の下で、「社会人基礎力」はむしろその重要性を増しつつ、「人生100年時代」ならではの切り口や視点が必要になってきました。そのため、これまで以上に長くなる個人の企業・組織・社会との関わりの中で、ライフステージの各段階で活躍し続けるために求められる力を「人生100年時代の社会人基礎力」と新たに定義し、能力を発揮するにあたって、自己を認識してリフレクション（振り返り）しながら、目的、学び、統合のバランスを図ることが、自らキャリアを切り開いていくうえで必要と位置づけられています。要するに、長くなる一方の人生の最終段階まで、社会人基礎力の獲得とブラッシュアップを図る必要があるということになります。

清真の教育を考えるうえで、確かな学力を育成することは第一義的な課題ですが、そのうえで、将来社会の中で十分活躍できるための基礎力育成の一端を、学校として意識的に担うことも必要な視点であると考えています。体育祭や創陵祭、各種学年行事や講演会そして部活動など、常に、子ども達のどの部分の能力を育成することがねらいであるか、そのことを明確にすることが大切です。これからも、教育課程全体の中で、いかに清真生の社会人基礎力の育成に取り組むかは、大きな課題であると認識しています。